

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個に応じた「確かな学力」の定着と、「豊かな心」をはぐくみ、将来を「生き抜く力」を身に付けさせることによって、地域や保護者から信頼される学校をめざす。

1. 地域や生徒の実情を踏まえた特色ある教育活動を展開し、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学習の確実な定着を図る。
2. 他人を思いやる心や自然や美への感性など「豊かな心」をはぐくみ、規範意識を身に付けた生徒を育てる。
3. 教職員が一丸となって『学校力』を高めあい、生徒に「生き抜く力」を身に付けさせる。

2 中期的目標

1 基礎的・基本的な学習の確実な定着に向けて

- (1) 個に応じた「確かな学力」の確実な定着を図る。

- ア 生徒の学力に応じた教科科目の設定を行い、1年次生から卒業まで、計画的に基礎的・基本的な学習を身に付けさせる。
- イ 生徒支援の視点から、生徒の学力、意欲、適性等を総合的に見極め、個別データを蓄積しきめ細かな指導で「確かな学力」の定着を図る。
- ウ 25年度生からの「3年卒業4年卒業選択制」を有効に機能させ、卒業率の向上を図る。

- (2) 生き生きとした活力ある授業をめざして

- ア 教員としての全般的な力量を高める取組みを学校全体で実施する。
- イ ICTを活用した魅力ある授業づくり26年度から進め、28年度までに定着させる。

2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒を育てる

- (1) 規律・規範のある学校生活を通して、豊かな心をはぐくむ取組みを推進する。

- ア 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
- イ 26年度策定の「規範意識を持たせるための教育プログラム」に基づき、系統的な教育活動を実践する。
- ウ 生徒指導のユニバーサルデザイン化を研究・実践する。

- (2) キャリア教育、人権教育の推進

- ア 27年度から3年計画で体系的な進路指導体制を構築し、卒業時の進路決定率100%（就職は就労率）をめざす。
- イ 互いを認め合える人権教育を実施し、差別や偏見を許さない態度を育てる。

3 生徒支援を軸にした学校づくり

- (1) 生徒支援

- ア 生徒支援カードを活用するとともに、教員の生徒指導力を向上させ、個々の生徒に応じた支援を組織的に実践する。
- イ 「居場所づくり」「承認行為」を進めるため、教育相談活動の充実と校内検定制度等による表彰を実施する。
- ウ 上記の実践を通じて、中途退学や不登校の減少に取り組む。

- (2) 安全・安心な学校づくり

- ア 幅広い防災教育を研究し実践する。
- イ 26年度から始まった大規模工事の中で、生徒の安全・安心に配慮した施設の点検や充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1) 生徒：「学校満足度」90%と極めて高い。授業に関しては「教員の指導の満足度」70%、「教科、内容等の満足度」72%である。 【分析】学校満足度の高さは学校行事や生徒指導などが評価されている結果である。教員の授業力や科目や指導内容についての研究や改善を継続していく。</p> <p>2) 生徒：人権教育、防災教育については90%以上の肯定的回答。 【分析】生徒や学校の状況を把握した取組みができていた。</p> <p>3) 生徒：「悩みを相談できる先生がいる」75%の生徒が肯定的な回答。 【分析】生徒指導を含め、教員の信頼度の高さはみられるが、先生以外の相談相手がいるか等を把握し、きめ細かい対応をする必要がある。</p> <p>4) 生徒：「有職生徒」75%で、「仕事等に力を入れている」70%と高い。一方、何もしていない生徒が16%いる。 【分析】不登校や退学の原因・理由の大半が仕事優先であることから、一人ひとりの学業と仕事等の状況を把握し適切な指導を行う必要がある。一方、卒業後の進路未定者が増えており早期からのキャリアカウンセリング、体験活動の推進、職場開拓を行う必要がある。</p> <p>5) 保護者：「学校への満足度」肯定的回答100%と極めて高い。 【分析】学校の取組みが評価されているが、回答数が20人（3割弱）と少ないので、行事・懇談等を利用してひろく意見を集める必要がある。</p>	<p>第1回目 6月13日（月） ○授業を見ていると学校全体が落ち着いており出席率がよいことがわかる。 ○学校教育自己診断について、経年変化を調べるだけでなく、具体的な教育活動の意見や、保護者が答えやすいように質問を修正する。 ○電子黒板の利用を進めることは大切だが、内容が大切である。取組み率の向上も重要な課題であるが、授業研究を怠らないようにする必要がある。</p> <p>第2回目 11月18日（金） ○授業中のスマホの利用について、自制できるようにすることとモラル指導を行っていくこと。 ○アクティブ・ラーニングは数値目標を目的に導入するのではなく、生徒の個性や状況に応じた導入をして、授業の質を高めるように。 ○授業アンケートは数値が一人歩きしない配慮と生徒自身の振り返りになるような利用がよい。出席状況により分けた結果を出してみるとよい。</p> <p>第3回目 2月9日（木） ○学校満足度が生徒、保護者とも極めて高い。先生方の丁寧な取組みの成果であり、生徒の様子も落ち着いている。 ○就職指導のため、時間をかけて勤労観・職業観を育成していく。 ○先生と生徒の関係性は良好。今後は生徒間関係づくりの取組みをする。</p>

府立成城高等学校(定)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔27年数値〕	自己評価
1 基礎的・基本的な学習の確実な定着	(1) 個に応じた学力の定着 ア 基本科目の検証、改善、成績の向上 イ 1年次生に興味関心を持たせる授業の研究 (2) 生徒のやる気高め、活力ある授業づくりの推進 ア 教員力の向上 イ 授業のICT化	(1) ア 学力診断テストを実施し、指導の改善を図るとともに、生徒個別データの蓄積から学力の定着を図る。 イ 学校における学習になじめていない生徒を授業に参加させる教材、授業方法を研究し実践する。外部機関と連携し「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の授業を改善する。 (2) ア 教員としてのトータルな力量向上のため職員研修と研究授業を実施する。また、自主研修やレポート作成を実施する。 イ すべての教科がICTを活用した授業指導案を作成し実践する。ICT活用事例の研修を実施しさらなる活用を行う。	(1) ア 学力診断テスト報告会実施。授業アンケート肯定率85%〔84%〕。成績向上者数。 イ 1年次生の講座で教材での授業アンケート満足度80%。学校外の機関との連携授業数と満足度70%。 (2) ア 研修回数10回。レポート提出率90%〔86%〕。自己診断での授業満足度90%〔87%〕。公開研究授業週間年2回実施。 イ ICTを活用した授業を推進数。生徒の満足度80%。	(1) ア テストは2年4/11、1年4/17。報告会は4/27に実施。授業の肯定率は71%。成績向上数は生徒数が少ないため測定しなかった。(△) イ 1年次生の満足度77%。外部機関との連携講座9回(着こなし、障がい者スポーツ、労働関係、NPOの講座)と多彩に実施できた。(○)生徒は「産社」「総学」の授業は59%が役立ったと回答しており満足度は低い。(△) (2) ア 24回実施。レポート提出91%。校外FW(コリアタウン、夜中)公開授業は6/27、12/11授業満足度(質問を変更した)71%。(△)公開授業研究週間は2回実施。(○) イ 普通教室がホワイトボードに変更され、電子黒板+タブレット等の活用をする教員は57%。全教員がICT機器を活用した授業を実践しており、生徒の満足度は79%。(○)
2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒の育成	(1) 学校生活の充実 ア 生徒会活動の充実と地域貢献 イ 規範意識の醸成と感性を高める取組み ウ 生徒指導法の工夫 (2) キャリア教育、人権教育の推進 ア 進路指導体制の構築 イ 互いを認め合える人権教育	(1) ア 体育祭、文化祭を生徒会中心に盛り上げ、地域参加も促す。地域清掃を2回実施する。また、あいさつ運動を、年間3回計3週間実施する。 イ 「規範意識を持たせるためのLHR」実施し、意識の向上を図る。生徒の感性を高める取組みを実施する。 ウ 生徒指導のユニバーサルデザイン化を研究し実践する。また、生徒通信を発行するとともに学校だより等の広報媒体をHPに掲載する。未然防止の指導を徹底し、懲戒事案の減少に努力する。 (2) ア 体系的な進路指導体制を構築し、28年度入学生から逐次実施する。その一方で、就労を促進し全校就労率の向上をめざす。職業斡旋やインターンシップを実施・検証する。 イ 本校生に有効な人権HRを2回実施する。	(1) ア 自己診断による生徒の満足度85%〔86%〕。地域清掃、あいさつ運動の実施回数。 イ HR実施時間H27年度16時間と同回数実施。取組み内容の肯定率。 ウ 教員の肯定率70%。生徒参画による啓発活動2回。生徒通信等HP掲載年間10回〔10回〕。停学者過去3ヶ年平均の10人以下〔5人〕。 (2) ア 新進路指導計画の策定。就労率を75%〔71%〕。職業体験等5件以上。就職内定率80%〔73%〕。 イ 生徒と教職員自己診断肯定率85%〔81%〕。	(1) ア 文化祭・体育祭の生徒の満足度は91%。地域清掃7/20、あいさつ運動3回(15日間)、今年は生徒の参加が増えた、生徒会を中心に盛りあがっていた。(○) イ 16時間実施。生徒は79%が本校の生徒指導に納得していると肯定的な回答である。(○) ウ 教員の生徒指導の肯定回答は94%。(○)計画した生徒参画での生活指導啓発はできなかった。(△)学校だより等をHPに10回掲載。生徒指導通信10回発行や新規にPTA通信を2回発行し保護者の理解をすすめた。(○)停学者数2件(2名)未然防止の取組みにより目標を達成した。(◎) (2) ア 75%の生徒が就労している。職業体験等は2件、応募前職場見学11名実施した。(○)専門家によるカウンセリングなどきめ細かく指導を行い就職内定率は80%。(○) イ 5/26、11/18に実施した。肯定率は生徒が68%、(△)教員は100%。(○)
3 生徒支援を軸にした学校づくり	(1) 生徒支援 ア 個別の生徒支援の取組みと効果的な生徒指導の充実 イ 居場所づくりと承認行為 ウ 不登校及び退学者の減少 エ 食育指導の実施 (2) 安全安心な学校づくり ア 防災教育 イ 工事対応	(1) ア 本校独自の生徒支援カードを活用し学校全体での支援情報会議を年3回開催する。また、ケースカフェを開催する。 イ 保健室を活用した「居場所づくり」の整備し実践する。また、検定等による表彰「承認行為」を実施し、履歴書に書ける検定の受検を勧める。 ウ 不登校の生徒に対し、中高連携や学校全体の取組みで支援する。特に高校生活になじめない新入生対策に重点を置く。 エ 給食制度の休止に伴い、生徒の健康維持の啓発教育を実施する。 (2) ア 「生命を守る」防災HRの実施。 イ 大規模工事の中で、教員と行政が連携し生徒の安全確保を図る。	(1) ア 支援情報会議、ケースカンファレンスの実施回数と教職員向け肯定率80%。 イ 生徒肯定率の75%〔73%〕。校内検定実施教科数、検定受検数。 ウ H28年度入学生登校率75%〔80%〕。中高連携回数。退学者数20%減〔70%減〕。 エ 食育指導のHRや活動を年2回実施する。 (2) ア 生徒の自己診断での肯定率85%〔87%〕。 イ 仮設棟、北館付近での安全対策と指導。	(1) ア 支援会議3回、ケースカンファレンスは2件であった。教職員は生徒支援の取組みに対し100%が肯定的と回答。支援の取組みが組織的に行えるようになった。(◎) イ 校長マネジメント経費で保健室の整備を実施(図書、年度、椅子)。生徒の肯定率は75%。(○)毎回の生徒集会で表彰を実施したが校内検定は未実施、外部検定3名。(△) ウ 新入生登校率は80%。中学校訪問、学校案内刷新・学校説明会(3回)に取組む。(◎)退学者は10名と半減以下。(◎) エ 「食育たより」は年4回発行した。食育講座は年2回実施した。健康啓発は今後の継続課題として取組む。(○) (2) ア 教職員がLED懐中電灯を所持して誘導するなど実践的な内容で10/27に実施し、生徒の94%が肯定的な回答であり評価できる。(◎) イ 豪雨時に通路が冠水することから高床歩道を整備したが、さらに取組みが必要。(○)